

<校訓> 高志共生	大庄中通信	大庄中学校 H27年度 第4号 (H27. 5. 26 火)
---------------------------	--------------	--------------------------------------

中間テスト(1・2年) & 実力テスト(3年)が目前です

今週の木曜と金曜には1・2年の中間テスト、来週の月曜は3年の実力テストがあります。

1学期の中間テストは、昨年までは体育大会が6月の1週目にあったことから実施していませんでした。今年は、市内で統一実施の3年実力テストが6月1日と決まって体育大会の実施日を検討したところ、1学期から学習に集中させたいということから、体育大会の9月実施が決まりました。そして、昨年までは、1年生がテスト勉強の方法やテストの受け方を経験しないまま6月末の期末テストを迎えていましたので、体育大会が2学期なら中間テストを復活させてどの学年も勉強させよう、しかし、3年生は実力テストがあつてどっちつかずになっても困る…ということで色々検討した結果、1・2年だけ中間テスト実施ということになりました。

「3年実力テスト」は市の「進路対策事業」

3年の実力テストは、正式には「尼崎市中学校3年生学力調査」という名称で、尼崎市の「高等学校通学区域編に伴う進路対策事業」の一環として、さらなる学力向上、各校の学習評価の検証、進路指導体制の強化、将来についての意識付け、きめ細やかな進路指導や情報提供などのために、2年前から実施されているものです。わかりやすく言えば、尼崎市が進路指導のために予算を組んで、市内の全中3生徒を対象に行う学力調査ということです。もちろん、それ以前も各学校独自の問題で6月に「実力テスト」を行っていましたが、2年前から共通問題で全市統一実施になりました。範囲は、1・2年生で学習した内容のすべてです。3年生の人達の大目標である高校入試は来年の2月から3月ですが、そこに向けた勉強の絶好の機会です。短期間ですが、有意義な学習をしてくれることを願っています。

テスト勉強の方法 (参考)

(1) まず要点の整理・確認・まとめをする

テスト範囲が発表されて最初に取りかかるべきことは、各教科の教科書やノートを使って、要点を確認・整理しながら必要なことを暗記するといった勉強です。このとき、マーカーなどをたっぷり使ってキレイなノートを作ることだけに時間をかけていたり、ノートを書き写すだけの勉強ではほとんど効果がありません。大切なことは、自分は、どこがわかっていて、逆にどこがわかっていないのかを確認し、わかっていることを増やすことです。その中で、覚えるべきことがあれば、覚えるまで繰り返すという勉強が必要になりますが、これをあまり早い時期にやり過ぎてテスト当日に忘れてしまつてはいけませんので、暗記に取り組む時期・タイミングを考える必要があります。暗記の多い内容は、テスト前日に集中的に覚えるのも効果的です。



心理学者のエビングハウスによる有名な「忘却曲線」という研究報告があります。この研究によりますと、人間の脳は、記憶したことを20分後には42%忘れ、1時間後には56%忘れ、1日経つと74%を忘れ、1週間後には77%を忘れ、1ヶ月後には79%を忘れる、ということです。これは、単純な意味のない言葉の記憶を実験したものですから、教科書に出てくるような語句や用語・公式などを意識して覚えようとする場合には、少し違う結果になるかもしれません。しかし、この研究は、①学校で習った翌日に復習すること②土・日に1週間分の学習を再確認すること③何週間か前の学習内容をテスト勉強で復習する、という3回のくり返し学習の効果と必要性を教えてくれています。暗記の方法は、個人差がありますし、得意不得意もあります。しかし、必要なタイミングに覚え直すことが重要だということを知った上で、効果のあるテスト勉強に取り組むのと、やみくもに暗記に取り組むのとでは、同じ時間をかけても効果が全然違ってくるということを知って、勉強してほしいと思います。

(2) 問題をやってみる、そして、くり返し問題を解く

テスト勉強では、できない問題をできる問題にしていくことが大切です。教科書を読んだり、ノートに書き写す勉強だけでは、テストの時に正解を書けるようになりません。ですから、問題練習をする必要があります。もし、正解が書けなければ、①問題の解説や教科書を見て、問題の解き方を考えてみる、②家の人、学校の先生、友達などに解き方を聞く、③問題の解き方がわかったら、要点やコツをノートに書き残しておく、といったことをやらなければいけません。これをやらずに、「提出しないと点数が叩かれるから」といって、解答を写すだけの勉強は、効果がありません。自分の頭を使ってテストの時に問題が解けるようにするのがテスト勉強です。また、問題練習は、1回だけでは、不十分です。1回目の問題練習は「自分の解けない問題を見つける」ことが目的です。次に、「たまたま正解が書けた問題や不正解の問題をできるようにする」のが2回目の問題練習で、2回目で「できた」と思った問題を「本当に正解が書けるか確認する」のが3回目の問題練習です。

・教科書やノートを見ている(ながめている)だけの勉強、

・できそうな問題はやらない勉強、

・できる問題だけ解いて、わからない問題はやらないという勉強、などは、得点につながりません。先生が授業で強調されたことを確認しながら、効果のあるやり方で「問題を解く」勉強が欠かせません。

テスト勉強の期間や方法には個人差があります

定期テストのための勉強に必要な期間や内容・やり方は個人差があります。教科によっても違ってきます。ふだんの授業を集中してしっかり受けていて、ふだんの復習も確実にできている人は、学校で習ったことがある程度理解できているはずですから、長めのテスト勉強期間は必要ないでしょう。逆に、授業の内容がちやんと理解できていない人は、少なくともテスト1週間前までに教科書やノートを見直ししながら、あるいは、わからないところを誰かに教えてもらったりしながら、テスト1週間前頃から「問題練習をする」とか「覚える」という勉強を始めるための準備をすませておく必要があります。つまり、授業での理解度やこれまでに習ってことがどれだけ身についているかで、定期テストに向けた勉強をする期間ややり方が違ってきます。

テスト前には、いろいろな工夫しながら「わかっている(覚えている)ことを増やす」勉強や「正解を書くために必要なことをする」勉強が必要です。短い期間だからやっても仕方がないのではなく、短い時間しかないからこそ、確実に得点に結びつくような意味のある勉強に集中的に取り組むことが大切です。

(文責:校長 福井 隆夫)